

令和3年度鈴鹿工業高等専門学校入学式 校長式辞

本日、鈴鹿工業高等専門学校令和3年度入学式を挙行出来ますことは誠に喜ばしく、本校の教職員ならびに在学学生を代表し、入学のお祝いを申し上げます。入学者は準学士課程204名、専攻科29名、そして第3学年にはインドネシアとモンゴルからの留学生2名を迎えます。

皆さんはこの一年間、新型コロナウイルスのために予期せぬ混乱と不自由に直面されました。それを乗り越えて難関の入学試験に合格し、この日を迎えられた皆さんに心より敬意を表します。皆さんは人生の早い段階で技術者への道を決心されました。このことにも敬意を表したいと思います。皆さんをお迎えできることは鈴鹿高専の大きな喜びであり、教職員一同身の引き締まる思いです。皆さんの高専生活が実りあることを願い、お祝いの言葉に代えて、今高専で学ぶことの意義と高専生活で心がけて頂きたいこととお話します。

ご存じのように、今日の社会は産業構造や生活様式など人類がこれまでに経験したことがないスピードで大変革を遂げており、政府は昨年の2020年を日本のデジタル元年と位置づけました。ですから、これから高専で学ぶ皆さんは、新時代を担う技術者になることを期待されています。先ずこのことをしっかり自覚して頂きたいと思えます。それでは新時代を担う技術者に求められることは何でしょうか。

従来の技術者には明確な課題を技術的に解決することが求められ、知識や技術があればある程度通用した側面があります。しかし今日の社会が抱える問題は考慮すべき要素が極めて多様であるために、問題の正しい解が無い時代と言われています。例えば、今私たちが直面している新型コロナへの対応の問題では、人の安全、経済の回復、学校では教育効果など、考慮すべき要素が多様で、全ての要素が十分に満足する解はないでしょう。このような不確定な社会の技術者には、知識や技術だけでなく、社会や他の人との関わりの中で問題を解決する能力が求められます。問題を正しく理解し、それを現実的に受け入れられる方法で解決する能力です。そのために必要な具体的能力は、先ず、課題に主体的に取り組む能力、そして、従来の制度や考え方に囚われないクリエイティブな発想力、最後に、コンピュータやロボットが到達できない豊かな感性です。

これらの能力や感性を養うためには、知識や技術の習得だけではなく、他の人と協力して目的を達成する経験が重要と言われています。他の人の中には専門が自分と異なる人もいます。鈴鹿高専はその体験を重視し、課外活動の他に授業でも例えば2年生のデザイン基礎や4年生の創造工学では5つの学科の垣根を取り払って問題解決に取り組めます。特に専攻科では、総合イノベーション工学専攻の名前が示すように、複合領域にも対応できる高度な実践的技術者の育成を目指しています。

皆さんは高専生活で、勉学に励んで確かな学力を身につけると共に、個々の関心や意欲に応じて、様々な人と共に様々なことに積極的に取り組んで下さい。これが、皆さんに心がけて頂きたいことです。

本校の建学の精神である、知・徳・体のバランスがとれた全人教育は時代と共に古びること無く、今一段とその輝きを増しています。この素晴らしい建学精神に則り、皆さんが鈴鹿高専で学び、色々なことに思い切り取り組み、良き友を沢山作り、青春を謳歌し、それぞれの個性に応じて成長されることを期待し、お祝いの言葉とします。

令和3年4月5日

鈴鹿工業高等専門学校長 竹茂 求